

別府遺跡 1

—第2次調査報告—

2023

福岡市教育委員会

別府遺跡 1

—第2次調査報告—



遺跡略号 BEF-2
調査番号 2039

2023
福岡市教育委員会



別府遺跡2次調査 SC01・SK03（西より）



別府遺跡2次調査区（南より）



別府遺跡2次調査区（西より）

序

福岡市は玄界灘を介して大陸・半島と一衣帶水の関係にあり、古くから交流がおこなわれてきました。なかでも城南区には、先史時代から中・近世にかけての遺跡が存在しています。近年の都市化により失われる文化財を保護し、後世に伝えることは、本市の重要な責務です。

本書は、七隈丘陵の先端部に立地する別府遺跡第2次調査について報告するものです。この発掘調査では紀元前2世紀頃にあたる弥生時代中期の住居跡を検出するとともに、大陸系の磨製石斧や石製の漁撈具が出土しました。これらは郷土の歴史を解明するうえで重要な資料となるものです。

本書が文化財保護にたいする理解を深める一助になるとともに、学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、関係者の方々には発掘調査から本書の作成に至るまでご理解を賜りました。心より御礼申し上げます。

令和5年3月23日

福岡市教育委員会

教育長 石橋 正信

例 言

- 本書は福岡市が、令和2年度に福岡市城南区別府5丁目で実施した別府遺跡第2次調査の報告書である。
- 発掘調査および整理報告書作成は、受託事業として実施した。
- 実測図作成および写真撮影の実施は、以下のとおりである。

業務内容	担当者
遺構実測図作成	常松 幹雄、坂口 刚毅
遺構写真撮影	常松
遺物実測図作成	山崎 貴代子
遺物写真撮影	常松
製図	常松、山崎 貴代子

- 本文に掲載した公共座標は世界測地系である。
- 本文中に掲載した方位は、座標北を示す。
- 本書に使用した国土地理院データは福岡市WEBGISの情報をもとに作成したものである。
- 本文中に使用する遺構略号とその性格は、以下のとおりである。
SC：住居跡 SK：土坑 P：柱穴 SX：その他の遺構
- 本書に記載する記録・遺物等の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに保管される予定である。
- 本書の編集・執筆は常松が行った。

遺跡名	別府遺跡	調査次数	2次	調査略号	BEF- 2
調査番号	2039	分布地図図幅名	072 荒江	遺跡登録番号	0244
調査地	福岡市城南区別府5丁目198番			調査面積	400m ²
調査期間	令和3（2021）年1月25日～令和3（2021）年3月4日				
整理期間	令和4（2022）年4月1日～令和5（2023）年3月31日				

本文目次

Iはじめ	1
II位置と環境	2
III調査の記録	3
IVまとめ	14

I はじめに

1. 調査に至る経緯

福岡市教育委員会は、令和2年9月8日に提出された福岡市城南区別府5丁目198番における埋蔵文化財の有無についての照会を受理した（事前審査番号2020-2-449）。これを受けた埋蔵文化財課事前審査係は、申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である別府遺跡に含まれることから令和2年9月29日に試掘調査を実施した。

試掘調査によって、かつて住宅があった地表面直下において遺構の存在を確認したことから協議を行った。その結果、今後想定される開発にたいして埋蔵文化財への影響は回避できないとみられるところから、記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。

その後、令和2年11月27日に有限会社 山田商店と福岡市で埋蔵文化財調査業務委託契約書を交わした。発掘調査は令和3年1月25日から3月4日にかけて行い、令和4年度に資料整理および報告書作成を実施した。

年度末の調査であったが、関係者には発掘現場の条件整備について迅速な対応をはかっていただいた。また調査内容について写真などの公開にご理解をいただき、地域住民への埋蔵文化財（別府遺跡）の周知につとめることができた。

2. 調査の組織

調査委託：有限会社 山田商店

調査主体：福岡市教育委員会

（発掘調査：令和2年度・資料整理：令和4年度）

調査総括：文化財活用部埋蔵文化財課課長 菅波 正人

同課調査第1係長 吉武 学（令和2年度）

本田浩二郎（令和4年度）

同課調査第2係長 藏富士 寛（令和2年度）

井上 薫子（令和4年度）

調査庶務：文化財活用課

松原加奈枝（令和2年度）

内藤 愛（令和4年度）

事前審査：埋蔵文化財課 事前審査係長

田上勇一郎

同課事前審査係 文化財主事

三浦 悠葵（令和2年度）

神 啓崇（令和4年度）

調査・報告担当：同課 主任文化財主事

常松 幹雄

II 位置と環境

別府遺跡は、七隈丘陵の先端、茶山方面からのびる丘陵の北端に位置している（図1）。昭和初期の地図によると南東200mほどの丘陵の平坦面は16.84mとなっている。別府遺跡は茶山遺跡とわずかに境を隔てた標高4～6mの残丘で、径170mほどの不整円形の範囲となっている。調査地点は残丘突端の標高5m付近にある。

調査地北側の道路面は15mほど低くなっている。北側の造構面は削平をうけたとみられる。土地条件地図によると調査区は更新世段丘の先端部で、北側は西新・藤崎など博多湾岸に形成された砂丘の後背低地となっている（図2）。東側を桶井川、西を七隈丘陵から派生する小河川によって開析されている。

別府は、桶井川の左岸、別府一帯に比定される。古代には早良郡の北東部、桶井川の左岸は毗伊郷にあたる。「筑前国統風土記」には櫻原・檜原（現南区）、東油山・堤・片江・長尾・田島（城南区）、鳥飼（中央区）、熊原・荒江（早良区）の10村を「桶井郷」とよんだとする※。別府は、江戸時代には別府村として鳥飼村の枝郷となつた。

「蒙古襲来絵詞」によれば文永の役（1274年）の際、菊池武房の攻撃により元軍は赤坂の陣から二手に分かれて退却し一方は「べふのつかははら」へ引いた。さらに元軍は「つかはらよりとりかいのしおひがた」に出て、熊原の軍勢と合流をはかったとある。別府の北側の鳥飼には潮干潟が広がつてゐたと記されている。

これまで1・2次調査区の北側の試掘調査において残丘は途絶え、道路面のレベルから-150cmで灰色粗砂層となることが確認されている。今回の2次調査で出土した大型石鍤は漁労可能な地点までそれほど隔たっていないことを示唆している。中世の「潮干潟」は弥生中期段階では潮干帶ともいえる立地だった可能性がある。

表1 別府遺跡における調査区一覧

調査次数	遺構・出土遺物	文献
1次調査	弥生時代の土坑・古墳時代の住居跡・掘立柱建物、弥生土器・土師器・須恵器	市報213集
2次調査	弥生時代の竪穴住居跡2棟・土坑1基、大陸系磨製石斧・大型石鍤・台石	市報1490集

【参考文献】

「筑前国統風土記」は、福岡藩が元禄元（1688）年に、福岡藩の儒学者・貝原益軒を著者とし、甥の貝原好吉、高弟の竹田定直らが編纂した筑前国の地誌である。

貝原益軒・伊東 尾四郎1988『筑前国統風土記』増補版、文献出版

※平凡社2004『福岡県の地名』『日本歴史地名大系』第41巻 熊原は早良郷の遺称地とみられることから除外されるとみる。

下山正一・磯 望・野井英明・高塚 肇・小林 茂・佐伯弘次1998『鳥飼低地の第四紀層と地形形成』『福岡平野の古環境と遺跡立地』九州大学出版会 45～68頁



図1 別府遺跡2次調査地点の位置（1／40,000） ■2次調査地点

III 調査の記録

（1）調査の概要

別府遺跡1次調査は昭和61年6～7月に実施された。2次調査区の東南部に接している（図3）。周辺では開発計画にともなって試掘調査を実施してきたが本調査には至らなかった。今回は試掘時の所見で、円形プランの住居跡の存在が想定されたことから本調査を実施することとなった。

2次調査は令和3年1月25日からバックフォーによる掘削を開始した。地表面から30cm程度で遺構検出面となる。遺構面には建物解体時の爪バケットの痕跡がひろく見られた。今回の調査で、弥生時代中期の竪穴住居跡1基が確認された。また新たに土坑2基の存在が明らかとなった。

竪穴住居跡SC01は円形プランで直径5.6mとなる。中央には土坑があり、その土坑を囲むように柱穴が検出された。土坑SK02は弥生中期末、土坑SK03は中期後半に比定される。

SC01の床面で弥生中期後半の土器が出土した。炉の西に近接する中央土坑では柱状片刃石斧1点、南側で作業用の台石が出土した。

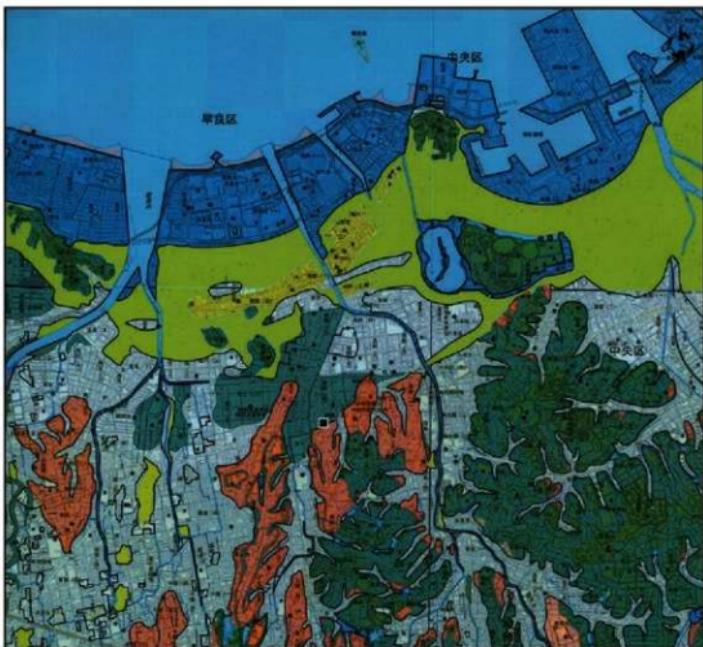


図2 別府遺跡2次調査区の立地 (1/40,000) ■2次調査地点

調査区東では隅丸長方形プランの土坑S K02が検出され、底で有孔広口壺が出土した。土坑S K03では弥生中期後半の土器のはか大型石材は、両端を打ち欠き、大型の錘に加工されていた。住居跡に置かれた扁平な灰色の石(火成岩か)は、東の土坑S K03の石錘と色調・質感がよく似ている。土坑の中央で短軸に2つの柱穴が検出されたことから、住居跡S C01に付随する作業場的な建物だった可能性がある。

遺構の写真撮影・遺構実測を実施したのち埋戻しを行い、3月4日に撤収をおこなった。調査面積は400m²、出土遺物はコンテナ6箱である。

(2) 検出遺構

地山は更新世段丘の褐色で粘性のたかい土質である。堅穴住居跡1棟と土坑2基が検出された(図4・5)。うろこ状の線は解体時のバケット痕である。

S C01 (図6)

調査区中央で検出された径5.6mの円形プランの堅穴住居跡である。住居跡の壁は、東側の遺存状況がよい箇所で約20~25cm、西側は攪乱により失われた箇所が多くかろうじて一部が残っている。住

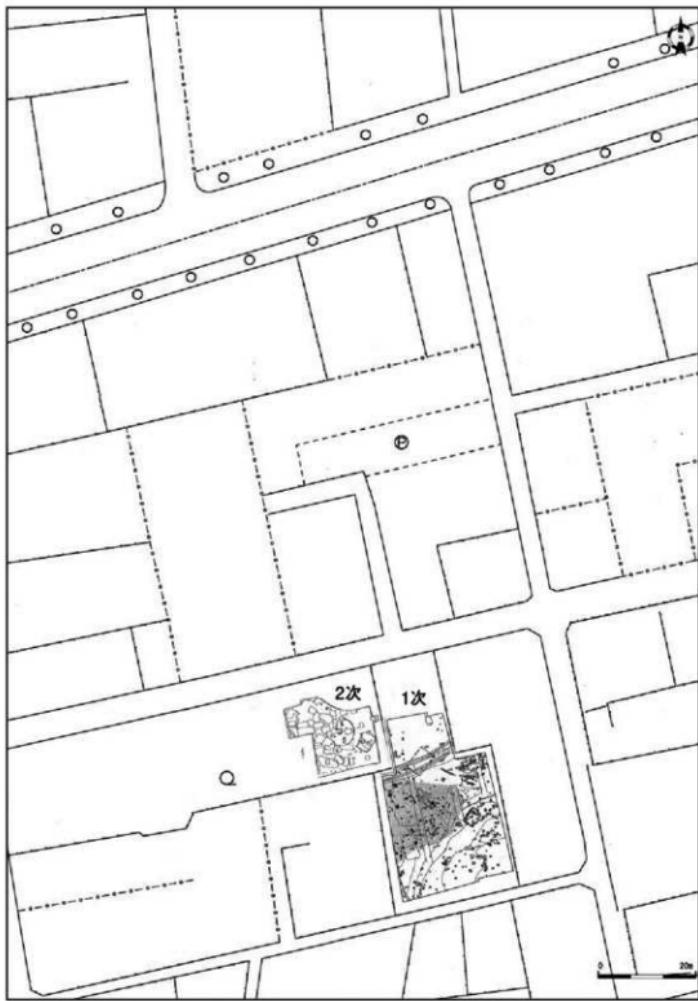


図3 別府遺跡1・2次調査区位置図 (1/1,000)

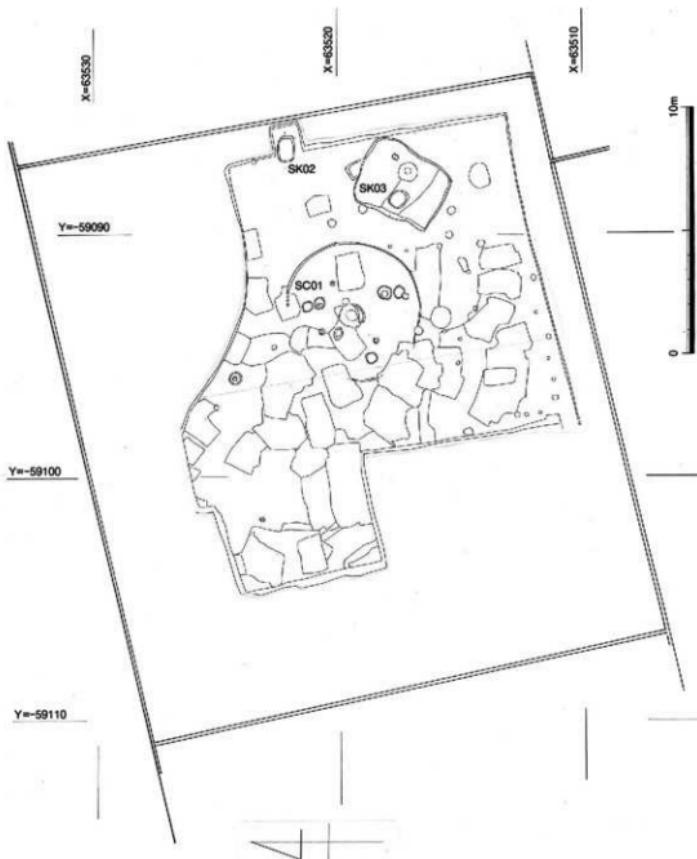


図4 別府遺跡2次調査区遺構配置図(1/200)

居跡の中央付近で焼土の堆積が3カ所にみられた。その焼土面の西に径1.0m弱で深さ40cmの中央土坑が検出された。中央土坑は暗黄灰色の埋土で、炭化物の混入が認められた。柱状片刃石斧は埋土の中央で出土した。

住居跡南東部では扁平な礫が床面直上で出土した。表面に擦痕がみられることから作業台などに使われたとみられる。

エレベーションをABCの3カ所に設定した。柱穴P1・P4・P5・P3・P6は、床面との高差が40cm以上で主柱穴となりうるものである。P2は深さ30cmで他と比べると若干浅い。

壁にそった箇所に土坑は確認されていない。P3・P6の間が南向きなので出入口はこの延長部に



図5 別府遺跡 2次調査区遺構配置図 (1 / 80)

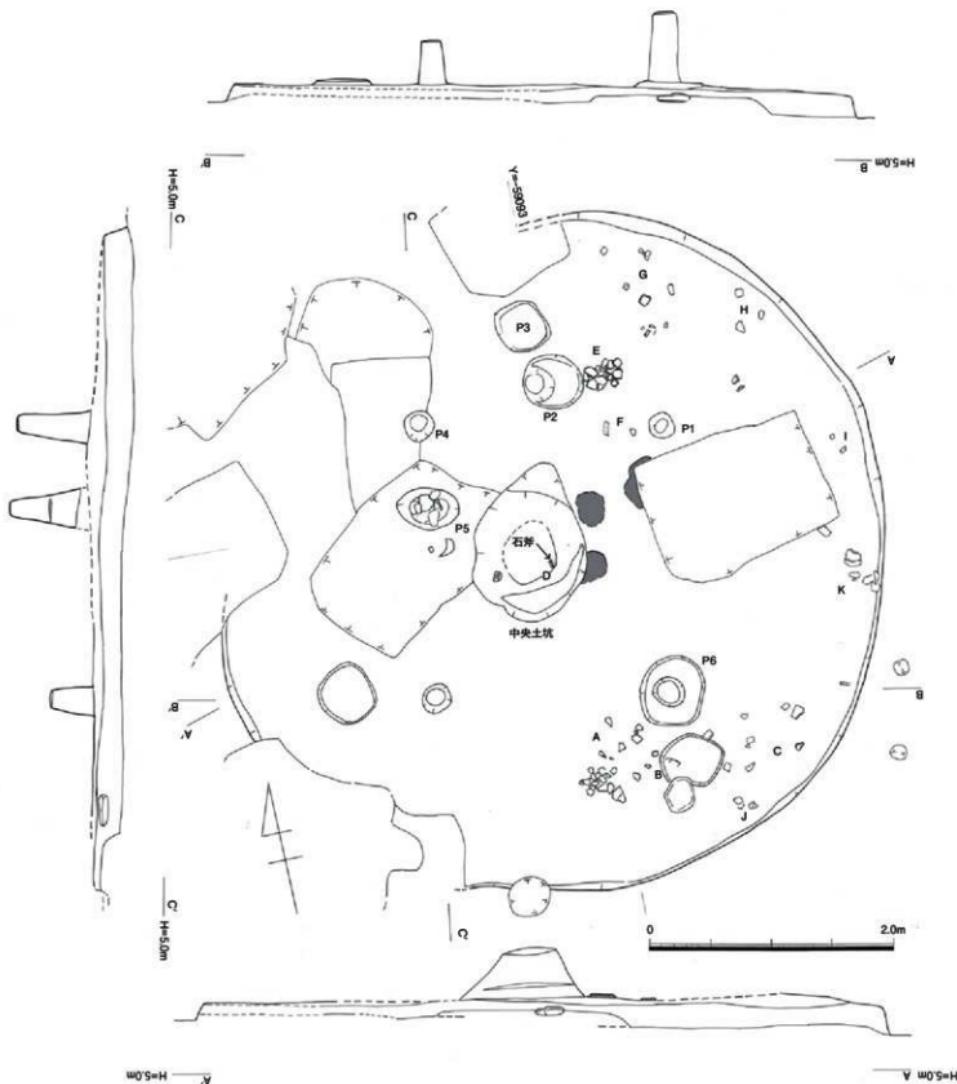


図6 別府遺跡 2次調査区SC01実測図 (1 / 40)

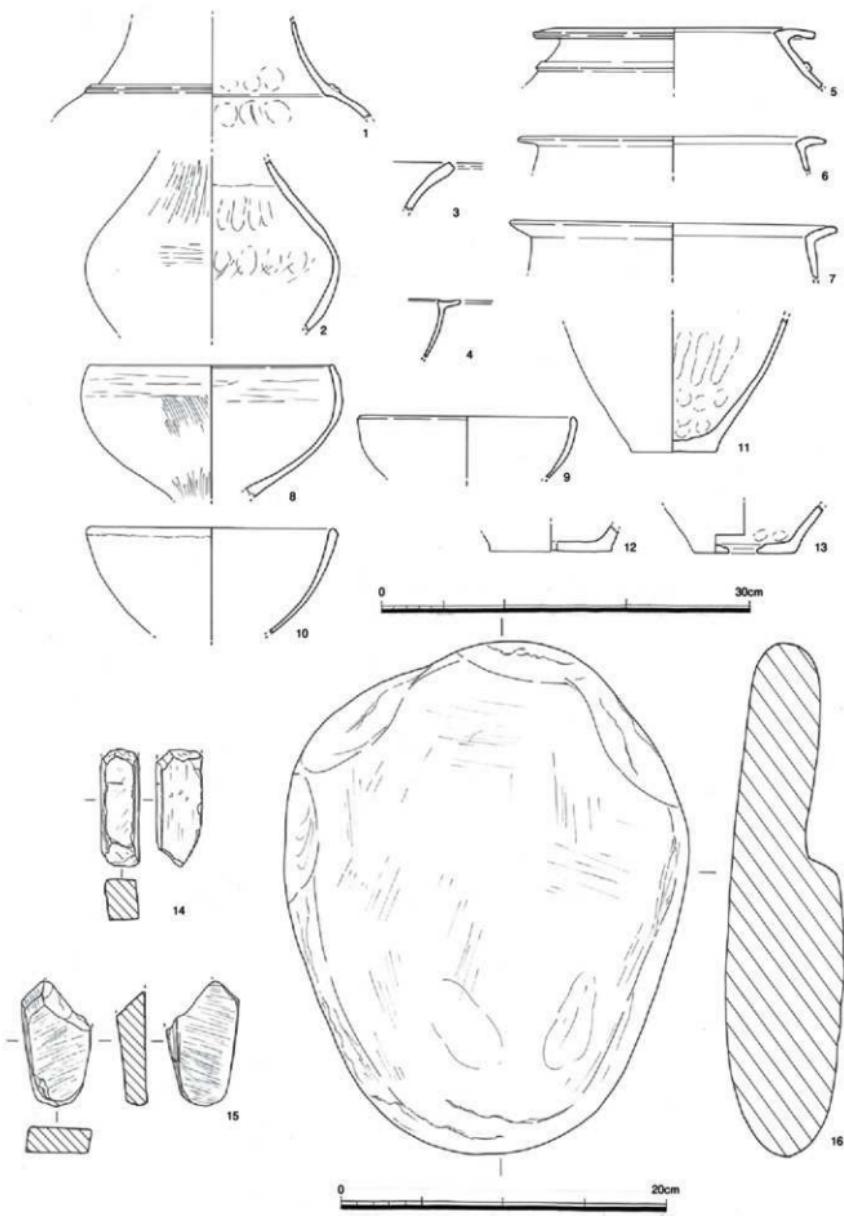


図7 別府遺跡2次調査区SC01出土遺物 (1/4・1/3)

設けられていた可能性がある。

土器は小片が多く床面直上でA・EおよびP 5でまとめて検出されたが、それ以外はまばらな分布で床面から10~15cmほど浮いた状態で出土した。

S C01出土遺物（図7）

出土遺物は弥生土器と石器である。出土遺物につづく（ ）の表記は、図6の出土位置や柱穴の番号に対応する。

1 (K)は壺形土器の頸部から胴部にかけての破片で頸部に断面M字の突帯を回らす。袋状口縁あるいは鋸先口縁壺の一部と推定される。頸部径20.8cmで丹塗りの痕跡がある。2 (P 5)は壺形土器の頸部から胴部の破片で袋状口縁壺の一部と推定される。丹塗りの痕跡がみられ、頸部にタテ方向、胴部に横方向の研磨が施されている。3 (L)は広口壺の口縁部の破片で端部にかけて肥厚している。4は鉢形土器の口縁部とみられる。東側覆土出土。5 (A)は胴部上半に重心をもつ壺形土器の口頸部で口径23cmをはかる。頸部に断面台形の突帯を回らす。丹塗りの痕跡がある。6は壺形土器の口縁部で口径25.4cmをはかる。中央土坑南の炉跡で出土。7 (F)は壺形土器の口縁部で口径26.8cmをはかる。8 (E)は鉢形土器で口縁部が内湾してすぼまる。口径20.0cmに復元される。9 (G)は鉢形土器で口径18.0cmに復元される。10 (P 5)は鉢形土器で口径20.6cmに復元される。11 (P 5)は壺形土器の底部で内面に指おさえの痕がみられる。底径7.0cmをはかる。12 (C)は壺形土器の底部で底径10.0cmに復元される。13(中央土坑)は壺形土器の底部で底径8.0cmをはかる。中央に焼成後の穿孔がみられる。

14(中央土坑)は、柱状片刃石斧の破片である。土坑の検出面から20cmほどで検出された。現存長7.1cm、基部および刃部先端を欠く。断面は幅2.0cm×2.4cmの継長の長方形である。灰白色の堆積岩を用いている。15 (C)は扁平な堆積岩で浅黄褐色を呈している。現存長7.6cm、最大幅4.2cmをはかる。擦痕から砥石と推定される。16 (C)は住居跡の南側で出土した扁平な礫である。表面全体に擦痕がみられることから、台石として使用されたとみられる。長軸31.3cm、最大幅24.7cm、厚さ7.3cm、重量は8.55kgをはかる。火山岩質で黄灰色を呈し、全面に風化がみられる。

S K02 (図8)

調査区東端で検出された長軸1.05m、短軸0.7m、深さ0.3mの不整長方形プランの土坑である。地山は暗褐色のローム質土で、埋土は暗茶褐色土。床面から15cmほどの覆土中で花崗岩の礫が検出された。壺形土器は床面に割れた状態で出土した。

S K02出土遺物（図9）

17は口縁部直下に対応する水平方向の穿孔をもつ。口縁部は少しだけ気味にゆるく開く。外側は橙色を呈し、内面は黒色を帯びている。福岡平野の事例をみると双口広口壺の系統とみられる。18は壺形土器底部の破片。内外面とも橙色を呈する。底径8.0cm。19は壺形土器の底部で、底径7.4cm。焼成後の穿孔がみられる。内面の黒っぽい色調は17に近く、同一個体となる可能性がある。20は埋土の上面で出土した。もともと玄武岩製の石器だったのかもしれない。

S K03 (図10)

堅穴住居跡 S C01の東で検出された長軸3.60m、短軸2.80m、深さ0.35~0.40mの隅丸長方形プランの土坑である。短軸にそって中央に深さ15~30cmの深い掘りこみが確認された。地山は暗褐色のローム質で、埋土は暗茶褐色土。遺物は遺構の北側で比較的多く出土した。大型の石錘が床面に近いレベルで検出された。

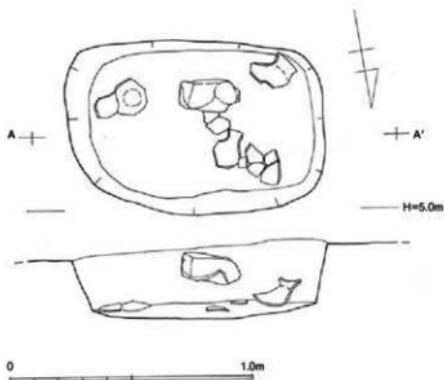


図8 別府遺跡 2次調査区SK02実測図 (1/20)

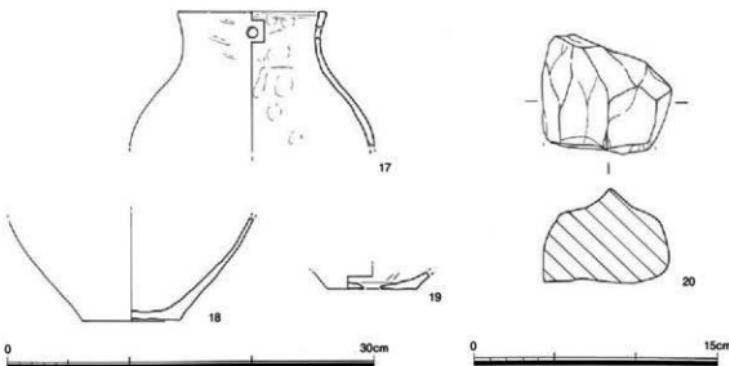


図9 別府遺跡 2次調査区SK02出土遺物 (1/4・1/3)

S K03出土遺物（図11）

21(北)は壺形土器の口縁部で内傾する口縁部をもつ。口径32.4cmをはかる。22(北)は壺形土器の口縁部でゆるく内傾する口縁部をもつ。口径28.0cmをはかる。23(北)は広口壺の口頸部の破片である。口縁は内側にゆるくせり出している。24(北)は壺形土器の口縁部で屈曲部はゆるく弧をえがいている。25(北)は小型壺または壺形土器の口縁部で屈曲部は平坦で内側にゆるくせり出している。26は小型壺または壺形土器の口縁部で屈曲部はゆるく弧をえがいている。土層ベルト検出。27(北)は小型壺または壺形土器の口縁部で屈曲部はゆるく屈曲する。土層ベルト検出。29(R 1)は壺形土器の底部で底径8.6cmをはかる。表面にハケ目痕がみられる。30(R 4)は壺形土器の底部で底径7.0cmをはかる。31(R 6)は壺形土器の底部で底径8.6cmに復元される。

32は大型の石錘である。扁平な石材の短辺の両端を打ち欠いている。長軸25.4cm、最大幅22.5cmで打ち欠き部は20.3cm、重量6.0kgをはかる。黄灰色を呈するS C01出土の台石と同様の質感をもつ。33は紡錘形の石錘で長軸に沿って断面がV字形の溝が彫りこまれている。灰白色の軟質の石材が用いられている。長軸4.3cm、幅3.2cmで58.5gをはかる。

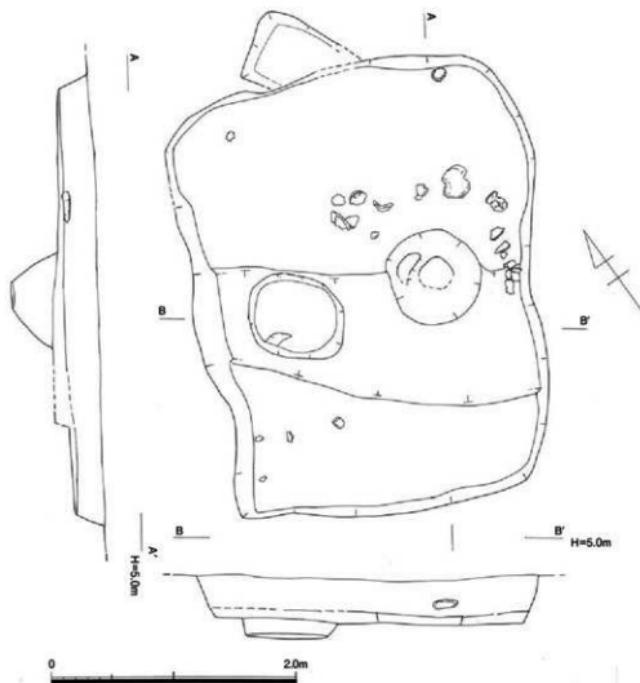


図10 別府遺跡 2次調査区SK03実測図 (1/40)

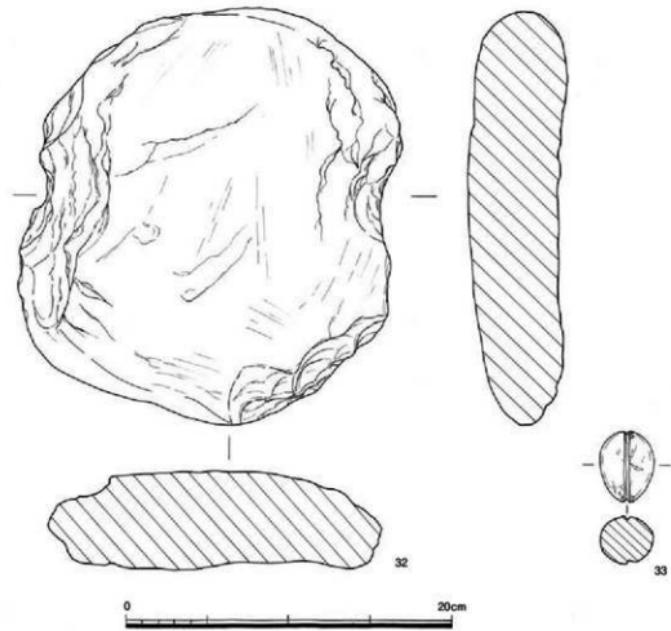
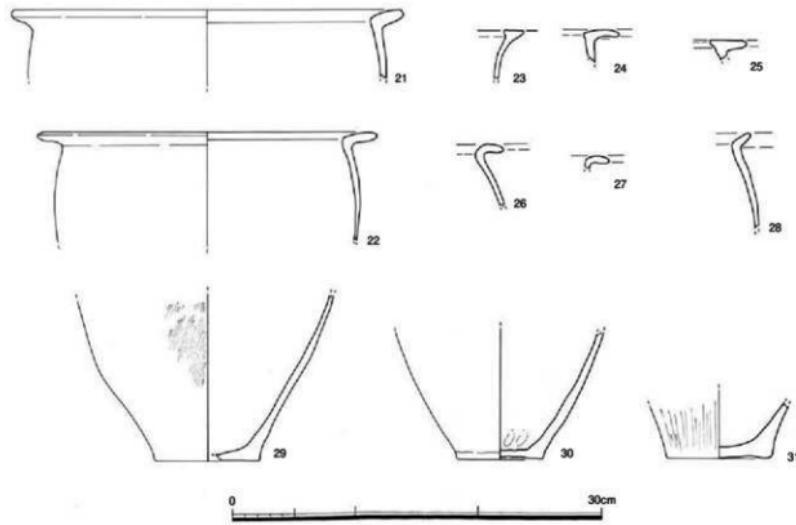


図11 別府遺跡2次調査区SK03出土遺物 (1/4・1/3)

IVまとめ

2次調査では、弥生時代中期の堅穴住居跡1基と土坑2基の存在が明らかとなった。

堅穴住居跡S C 0 1は円形プランで直径5.6m、径にそって復元すると床面積は24.6m²、15畳ほどの広さとなる。床面で須玖Ⅱ式古段階、弥生中期後半の土器が出土した。中央の土坑を囲むように4本+aの主柱穴が検出された。中央土坑では炭化物混じりの埋土から柱状片刃石斧の破片1点が出土した。南側で作業用の台石1点が検出された。床面直上で検出された1や5などの器種は中期中頃に近い時期にあたり、床面から10~15cm浮いた位置で検出された内傾する口縁部をもつ斐形土器などに通る特徴を有している。住居跡が埋没する過程で入った土器は中期後半に時期が降る傾向がみられる。中央土坑出土の柱状片刃石斧や台石は円形住居が廃棄された時期に帰属する可能性がたかい。

土坑SK 0 3では土器など出土遺物のレベルを捉えられなかつたが須玖Ⅱ式、弥生中期後半の土器が出土した。土坑の中央で短軸に2つの柱穴が検出されたことから、土坑SK 0 3は屋根をもつ構造物があった可能性がある。SK 0 3の床面で検出された石錘は、扁平な石材の両端を打ち欠いて紐掛を打出して、大型の錘に加工されている。この石錘と住居跡に置かれた扁平な灰色の台石は、色調・質感ともによく似ている。ふたつの遺構は、時期が重なることから円形住居と住居に付属する作業場的な建物が併設されていたとみられる。

土坑SK 0 2で出土した有孔壺17は、双孔広口壺である。双孔広口壺は、福岡平野の御笠川・那珂川流域の遺跡において井戸や溝で多く出土する傾向がある。樋井川以西の状況は分かっておらず、今回の出土例は注目される。

1・2次調査を含め石製他摘具である石庖丁は出土していない。一方、土坑SK 0 3で出土した大型石錘や投網用の有溝石錘は、集落の生業をある程度、漁労が占めていたことを示唆している。位置と環境でふれたように調査区の北側は西新町・藤崎遺跡が立地する博多湾岸に形成された砂丘の後背低地となっている。後背低地が舟が漕ぎだせるような環境だったかについてはさらに検討を要するが、今回の調査によって弥生中期後半の別府遺跡が漁労ネットワークの一端を担っていたことは確かなるようである。石材の入手や移動経路については今後も周辺の調査内容を注視する必要がある。



1 第2次調査区（西から）



2 第2次調査区（東から）



3 SK03遺物出土状況（北東から）

図版 2



4 SK02遺物出土状況（北から）



5 SC01全景（北東から）



6 SC01遺物EFGH出土状況



7 SC01全景（西から）



8 SC01遺物K出土状況



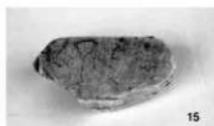
9 SC01中央土坑・P5遺物出土状況（北西から）



10 SK03・SC01全景（東から）



14



11 SC01出土遺物

15



32



12 SK03出土遺物

33

報 告 書 抄 錄

別府遺跡 1

—第2次調査報告—

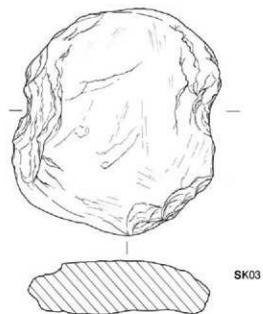
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1490集

令和5年3月23日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 株式会社 博多印刷
福岡市博多区須崎町8-5

The General Report on
the 2nd. Survey of Befu Ruins



2023 Mar.

Board of Education of Fukuoka City